

石仏 すとーん・さーくる

No.118

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2024年1月20日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石仏散歩

松之山豊田の金精系石仏群

柏崎市 渡邊三四一

もう二十年ほど前になるが、津南町の桑原和位氏から旧松之山町浦田の豊田地区に、男根を抱いた奇妙な石仏があると教えられた。そのうちにと思いながら時は過ぎ、忘れかけていた数年前、今度は井上光威氏からその写真を見せていただいた。それは男根崇拝に根差す金精様信仰を背景にした石仏群と思われた。

昨年五月下旬、漸く現地を訪ね宿願を果たした。道なき道を汗拭き登り、かつて薬師堂があつたという小高い山頂に十基の石仏を確認した。誠に珍しい石仏が、この山深い村に息をひそめ祀られていた。

両手に男根を抱いた仏像が三基、石棒状の男根像に線彫りや仏像を彫ったもの四基、船形光背に仏像を刻んだもの三基である。問題はその仏像が何であるかだが、男根を持たない像の手には「薬壺」状のものが見られ、おそらく薬師如来と推定できる。



男根に彫られた薬師像



男根を抱え持つ薬師像

かつて薬師堂があつたということからも蓋然性が高い。

村人に尋ねても、子ども時代にラジオ体操の場所であつたというだけで、信仰の詳細は不明である。

『日本石仏図典』には、群馬県高崎市に「きんまら薬師」と称する類例の記載があり、見事な男根を抱え持つ薬師像が紹介される。

金精様は子宝、安産、縁結び、下の病や性病などに靈験があるとされ、この石仏群もそうした意図からの造立と推測される。

中越地区見学会報告

9月11日(月)、中越見学会が十日町市「鉢の石仏」をメインに左記の行程で実施されました。参加は20名でした。

アルフォーレ前駐車場発→道の駅せんだ（川西）発→①川西赤谷の十二神社の石仏群と大権→②千手観音（長徳寺）の石仏群↓③十日町市川西文化財資料収蔵庫→昼食 小嶋屋総本店→④鉢の石仏→⑤神宮寺（県指定山門など）

私が「鉢の石仏」にこだわる理由

津南町 桑 原 和位

十日町市の「鉢の石仏」の中心部に、十三仏に囲まれて大きな石祠があり、その中に女陰型の自然石が鎮座している。行くたびに、その自然石が私の石仏探訪の興味関心を強めてくれる。

数十年も前になるが、その自然石とともに長さ40cmほどの石棒も置かれていた。当時、鉢の小学校には先輩が勤めていた。その先輩が鉢の石仏に触れ、「中世の祭祀記録によれば、母神が日光に感じて生んだの

が天童である。その天童を鉢の人々が、法師の導きにより、今の場所に祀ったのだ」と教えてくれた。天童と石棒とが私にはどうしても結びつかない。その時の疑問はそのままにして帰った。

翌年、再度鉢に出向き石仏群を訪ねた。

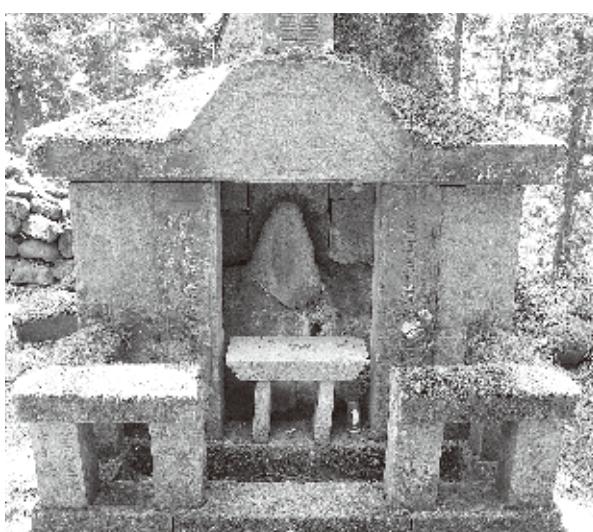
では、自然石を入れ物代わりにし、その中に丸石を積み上げている。松之山では、男根をしつかり抱いている仏まである（本紙一頁参照）。

陰陽石をめぐる民俗信仰は、誠に興味尽きない。

その時、石仏群の近くに住んでいて、供養のために時々十三仏を中心掃除をするのだという老婆と出会うことができた。その老婆に、十三仏の中心にある自然石について聞いてみた。老婆が言うには、この仏様は子授けの神様で、その石の棒で真ん中の窪みをしっかりと撫で、手を合わせると、子宝に恵まれると話してくれた。この老婆は、仏も神も意味内容では同じで、子宝に恵まれるとは、生殖を意味していると聞き取つた。

お礼を言つて立ち去ろうとした時、自然石の真正面に、十三仏にしては一仏足りないと思つていた不動明王が鎮座していた。また一つ疑問が湧いた。なぜ、対面しているのかと。

その後の石仏探訪では、形態の大小は別にして、自然石（女陰石）は、妻有郷での探訪の折に出会うことができた。旧十日町市でも、その周辺の松之山や松代、田沢地区や津南地区でも、そのような自然石はある。ただ残念ながら石棒は置いていない。津南



石祠内の女陰石(かつて石棒で窪みを撫でると子宝に恵まれるといった)

名工の里・高遠の石仏と史跡を歩く

一一泊有志見学会参加記 | 弥彦村 柏原路子

11月16日・17日(木・金)、コロナウイルスによる行動制限緩和で、4年ぶりに一泊見学会が実施され、22名が参加した。

初日は諏訪大社下社春宮周辺の散策と巨大な「万治の石仏」である。私は二〇〇二年以来2度目の訪問であった。帰宅後、前回の写真と見比べたが、周辺の整備が進んだようだ。



「万治の石仏」前で

2日目はあいにくの雨であったが、地元石仏ガイドの熊谷友幸さんに高遠石工の名工守屋貞治の手になる石仏を案内していただいた。塩供では珍しい「花文字道祖神」、桂泉寺の端正な「准胝觀世音菩薩」「延命地藏菩薩」を見学。市街地に戻り建福寺では「西国三十三所觀世音菩薩」「延命地藏大菩薩」「願王地藏」など40体余が貞治作であるという。それぞれ精緻ですばらしく、圧巻の石仏群であった。

その後、伊那市までバス移動、高遠歴史博物館を見学した。ここは城下町高遠の歴史や文化、人物などがテーマ別に展示されている。大奥女中頭絵島が幽閉された「絵島囲み屋敷」が大切に保存されていた。芸員さんから高遠石工や名工守屋貞治について解説があり、事前学習とした。

甲州や江戸と伊那谷を結ぶ主要街道(杖突街道)沿いの高遠温泉「竹松旅館」に到着。手作りの夕食でもてなされたが、名物「マツタケの土瓶蒸し」は言うに及ばず、「馬刺し」が新鮮でおいしく、「イナゴ」「蜂の子」「ザザムシ」など「昆虫食」は初めての体験であった。

締めは高遠郊外にある貞治の最高傑作のひとつ、勝間の大聖不動明王。氾濫を鎮める願いを込めて三峰川にかかる常盤橋のたもとに鎮座する全長1.5メートルの堂々たるお姿であった。高遠石工の見事さを存分に堪能できた見学会であった。



勝間・大聖不動明王



建福寺・三十三觀音前で解説の熊谷友幸さん

事務局だより

◆創立30周年記念

「石仏フォーラム」を開催しました！

去る10月1日（日）、当会創立30周年記念事業として第27回石仏フォーラムを新潟県立歴史博物館にて開催しました。

参加は60名（会員37名・一般23名）で盛況でした。

第一部（13時30分～14時40分）は公開座談会「新潟県の双体道祖神—その歴史と魅力を語るー」をテーマに、基調報告として渡邊三四一氏（会員）が「新潟県における双体道祖神の歴史と地域性」を発表、続いて座談会「双体道祖神の魅力を語る」と題し、井上光威氏（会員・写真展撮影者）、森庸男氏（ゲスト・全国の双体道祖神を調査中）に登壇いただき、聞き手に大楽和正氏・渡邊三四一氏（会員）が加わり、双体道祖神の魅力や調査の苦労を楽しく語り合いました。

第二部（15時～15時40分）はギャラリートークで同館1階・地下ロビーで開催中の写真展「寄り添う神に誘われて—新潟県の双体道祖神ー」の展示解説を行い閉会となりました。



座談会「双体道祖神の魅力を語る」の様子（新潟県立歴史博物館講堂）

編集後記

お知らせ 前記「石仏フォーラム」の資料冊子を欠席の会員に同封いたしました。ご覧ください。



ギャラリートーク（新潟県立歴史博物館1階エントランス）

新年明けましておめでとうございます。お陰様で、昨年は懸案の創立30周年記念事業を恙なく開催（巡回写真展は継続中）することができました。改めてお礼申し上げます。諸事情で新年の発行となってしまいましてが、本年最初の会報をお届けします。

では皆様、今年も石仏との出会いを楽しみましょう。

中越地区事務局 伊比卓郎

本号編集担当 中越地区事務局